



日本酒で乾杯推進会議レポート

第8回総会・フォーラム&懇親パーティ開く

日本を取り戻せ！多難な今こそ求められる「乾杯運動」の文化力



日本酒ジャーナリスト・ジョン・ゴントナー氏の発声で「日本酒で乾杯！」

「日本酒で乾杯推進会議」の第8回総会とフォーラム&懇親パーティが、9月30日の午後、東京港区元赤坂の明治記念館で開催され、会議の一般会員や各界著名人の支援組織 100 人委員会のメンバーらおよそ 450 人が、運動の進展へ向けて結束を固めました。東日本大震災をはじめ多事多難の日本にとって、今こそ求められる伝統文化の力。日本酒で乾杯運動は、スタートから 8 年目を迎えて、いよいよその真価を發揮する時を迎えています。



フォーラムでは神田阿久鯉氏(右上)と宝井琴調氏(中央)による講談2席と芸能をテーマに鼎談も(左下)



総会の模様

「日本文化のルネッサンスめざす」開会宣言を唱和

総会（16:00～16:30）は、日本酒スタイリストの島田律子氏による開会宣言でスタート。「私たちは日本を愛します。日本文化を愛します。そして、日本酒を愛します。『日本に乾杯』。そのはじめに、『日本酒で乾杯』。私たちは、日本文化のルネッサンスめざして、ここに「第8回日本酒で乾杯推進会議」総会の開会を宣言いたします、と島田氏が宣言文を唱えるのに合わせ、出席者全員が唱和して、運動への意欲をウォームアップ。



開会宣言する島田氏

日本酒を飲んで東北と日本文化を盛り上げよう

挨拶に立った100人委員会の石毛直道代表（国立民族学博物館名誉教授）は、「日本人の衣食住の中から和の心が失われている。地域に根ざした伝統芸能や祭り、年中行事を活性化させることが大事で、そうした文化が活性化することで日本酒も元気になる」と今回のテーマである「酒と芸能」の関係を説明。さらに、東日本大震災の問題に触れて、「震災で東北の日本酒が壊滅的な打撃を受けた。日本酒は地域の文化の中心であり、日本酒を飲むことで東北と日本文化を盛り上げよう」と団結を呼びかけました。



石毛代表

西村運営委員長が活動報告

日本酒で乾杯推進会議運営委員会の西村委員長は、7年間の活動経過と実績などを説明。この中で「会員数3万人達成が今年中に達成の見込みであることから、次の目標を5万人に拡大する」との方針を示したほか、先の福島大会が震災と原発事故による困難にも関わらず福島県酒造組合の努力で盛会裏に終了したことを報告。また、夏に開催された第1回「日本酒で乾杯デジタルフォトコンテスト」の結果について、「今回、大賞は出なかったが、今後毎年続けることで充実していくと思う」と述べました。



西村運営委員長

「岡山幻の日本酒を百年飲む会」に感謝状。フォトコンテスト表彰式も

恒例となっている「日本酒で乾杯運動に顕著な功績が認められた地域の個人・団体」への表彰では、岡山県の地酒応援団「岡山幻の日本酒を百年飲む会」が今年の実績に選ばれ、代表世話人の谷義仁氏に石毛代表が「運動を強力に進めてきた志と行動に感謝の意を表します」と感謝状を贈呈。

続いて、第1回「日本酒で乾杯デジタルフォトコンテスト」の表彰式が行われ、応募作45点の中から、パーティでの乾杯の様を撮影した群馬県板倉町の入内島孝子さんに、入賞者（入賞5名・佳作10名）の代表として、表彰状と副賞の日本酒3ヶ月分が贈られました（入内島さんの作品は6頁に）。



感謝状を手に谷代表(上右)

フォトコンテスト入賞の入内島さん(右の写真)





フォーラムの様

「お酒の楽しみ、講談の楽しみを見直して」(神崎宣武氏)

フォーラム(16:30~18:10)のメインテーマは「『酒と芸能』~日本のかたち、日本のこころ~」。3年連続で日本酒文化と伝統芸能の長くて深い繋がりを掘り下げようという企画です。



神崎氏

冒頭、プレゼンテーションを行なった100人委員で民俗学者の神崎宣武氏は、講談芸の誕生と発達を概説。「講談は落語や歌舞伎などと同じ小屋芸、寄席芸のひとつ。小屋芸に酒は付き物で、かつて人々は酒を飲みながら芸を楽しんだ。いま講談は衰退傾向にあるが、今日は、お酒の楽しみと共に、講談という話芸の楽しみを見直してみよう」と呼びかけました。

神田阿久鯉氏、宝井琴調氏が熱演

神崎氏のお話の後には、実際に講談の世界に触れる時間。今回の高座は、神田阿久鯉氏の「応挙の幽霊画」、宝井琴調氏の「義士銘々伝・赤垣源蔵 徳利の別れ」の二席で、片や丸山応挙の幽霊画をめぐる心温まる数奇な物語、片やご存知義士銘々伝の中でもとりわけ人気の高い話。

張り扇の使い方など講談芸の解説も交えながら、応挙と遊女



神田氏

の哀れ深い世界を描き出し

た神田氏、兄の羽織に向かって討ち入り前夜の分かれの盃を交わす名場面をじっくりと語った宝井氏、ともに力のこもった熱演。

中でも「徳利の別れ」は、日本人にとって酒がいかに大きな絆の役割を果たしてきたかを伝える一席で、参加者は、伝統話芸の真髄に魅了された様子でした。



宝井氏

講談と酒を話題に楽しい鼎談

講談二席に続いては、木下運営委員と宝井氏、神田氏が、講談と酒を話題に鼎談。

「地方公演のとき、その土地の言葉を聴きながら、その土地の酒を飲むのが楽しい」(宝井氏)、「師匠の松鯉は大の酒好きで、飲んでいるときの表情を観察するのが勉強になる」(神田氏)、「講談は日本酒と同じ。後世に残さなければならない日本の大切な文化だ」(木下運営委員) といった楽しいやり取りに、会場からは和やかな笑い声も -。



上の写真左から、木下運営委員、宝井氏、神田氏



懇親パーティの様

まずは全員で「日本酒で乾杯！」

一日の最終を飾った懇親パーティ（18:20～20:30）では、はじめに100人委員会の主だったメンバーが鏡開きを行なった後、アメリカ人の日本酒ジャーナリスト、ジョン・ゴントナー氏の発声で、参加者全員が高らかに「日本酒で乾杯！」。



100人委員勢ぞろい。上の写真はジョン・ゴントナー氏

日本酒と料理で無礼講のひと時

乾杯の後は、日本酒を囲んで無礼講のひととき。参加者は、全国各地の素材を使った料理を味わいながら、会場中央に設けられた日本酒ブースから、思い思いの銘柄を選んで試飲を楽しみました。



熱気いっぴいの会場

会場の一画には、日本酒で乾杯推進会議の会員募集コーナー（次頁写真）も設けられて、新規登録する人の姿も。また、例年どおり、日本酒で乾杯運動に賛同する関連団体6団体（下の写真）のブースも出展され、いずれも大勢の人で賑わっていました。

新たな1年のスタート

パーティの最後は、辰馬会長の中締め挨拶に合わせて、再び参加者全員が「日本酒で乾杯！」。さらなる運動の拡大へ、新たな1年のスタートです。



辰馬会長とともに中締めの乾杯



みそ健康づくり委員会



全国かまぼこ連合会



全日本漬物協同組合連合会



(独法)中小企業基盤整備機構 Rin



全国珍珠商工業協同組合連合会



鹿児島県茶業会議所



乾杯デジタルフォトコンテストで入賞した入内島さんの作品



日本酒で乾杯推進会議
 第8回総会・フォーラム&懇親パーティ
 明治記念館
 20011/9/30

乾杯の風景



中央会の会員募集コーナー